

## 関西まちづくり賞委員会

### 1) 関西まちづくり賞の趣旨と経緯

関西支部では、かつて支部長を務められた故仙石泰輔氏ならびに故田中孝男氏のご遺族からのご寄付を基金として「関西まちづくり賞」を設け、「まちづくりおよび都市計画の進歩・発展に著しい貢献をしたすぐれた成果または実績」を顕彰することにより、関西におけるまちづくりおよび都市計画の進歩・発展に資するとともに支部会員の意識の高揚をはかっています。この賞は、1998年11月の創設以来その表彰を行ってきており、毎年翌年度の支部総会時に表彰式を行っています。2014年度の総会で表彰した2013年度受賞で16回目を数えています。

### 2) 第16回関西まちづくり賞の選考と授賞プロジェクト

第16回の選考では、都市計画・まちづくり分野の調査・研究・設計・事業およびまちづくり活動のうち、特に、都市計画の発展に資する特色ある成果で、支部会員が直接関与もしくは推薦するものを対象とし、「新しい試み」「継続的な活動」「協働の取り組み」「他の地域で参考となる提案」の視点から評価されるものの推薦を受け付けました。

応募されたプロジェクトについて、支部内に設けられた「関西まちづくり賞委員会」が中心となって、「応募資料の審査」「現地での調査およびヒアリング」等の選考作業を行い、最終的に支部幹事会の議を経て、3プロジェクトを「関西まちづくり賞」に選定しました。

#### 「関西まちづくり賞」3件

#### ①福良港津波防災ステーションの整備をきっかけとした南あわじ市福良地区津波防災まちづくりの取り組み ～津波防災日本一のまちをめざして～（兵庫県南あわじ市）

（受賞者 福良町づくり推進協議会）

南あわじ市福良地区は、淡路島の南西部に位置し、福良湾の奥に市街地が展開しており、南海地震発生時には津波被害が予測されている地区です。

本プロジェクトは、平成22年9月に津波防災学習と地域交流拠点機能を有する福良港津波防災ステーションが完成したことをきっかけに、福良町づくり推進協議会と福良港津波防災ステーション運営協議会の連携により、単に津波防災の取り組みにとどまらず、津波防災をコアにしたまちづくり活動を行い、観光や福祉などの分野においても成果を挙げるとともに、住民の防災意識の向上に成功しています。

津波防災活動とまちづくり活動がうまくかみ合い、息の長い取り組みが必要となる地域の防災活動が、非常に楽しく効果的に行われているなど、同様の津波被害が予測される地域に大きな示唆を与えている先進的な取り組みです。

## ②ひがっしょ路地のまちづくり計画（駒ヶ林町1丁目南部地区近隣住環境計画）（兵庫県神戸市）

（受賞者 駒ヶ林まちづくり協議会、神戸市、有限会社スタジオ・カタリスト）

神戸市長田区駒ヶ林町1丁目南部地区は、長田港の北側に接し、漁村集落の特徴を残す網の目状の路地構成を持った木造密集エリアであり、神戸市の重点密集市街地の範囲内にある地区です。地区の活性化と防災性向上のため、平成3年に駒ヶ林まちづくり協議会が設立され、阪神淡路大震災後は、復興まちづくりに取り組まれてきました。平成17年には、「駒ヶ林町1丁目南部地区まちづくり構想」を策定、平成18年からは構想に基づき計画の検討を行い、住民による計画案を神戸市に申請されました。その後、計画変更や合意形成を踏まえ、平成25年6月3日に「ひがっしょ路地のまちづくり計画（駒ヶ林町1丁目南部地区近隣住環境計画）」が決定告示されました。

地域の課題を解決するために住民が主体となってまちづくり計画を策定し、他の地区に先駆けて、神戸市独自の「近隣住環境計画制度」を導入した先進的な取り組みです。

## ③時宜を得た連鎖型再開発事業による生駒駅周辺まちづくりの実現（奈良県生駒市）

（受賞者 生駒駅前北口第二地区市街地再開発組合、生駒市、株式会社大建設計、株式会社奥村組）

近鉄奈良線生駒駅の北側に位置する木造低層住宅地を、防災面の強化や都市機能の充実を図るため、地区の顔となる賑わいのある市街地として整備した事業です。本地区では、平成2年に市街地再開発事業が都市計画決定されたものの、長期にわたり事業実施に至らなかったため、事業規模を身の丈に見直し、地区のポテンシャルを活かして事業化に結びつけるとともに、隣接地区を含めた段階的・継続的なまちづくりを行い、これまで培ってきた知見を活かしながら、生駒市の玄関口にふさわしい拠点整備を実現しています。このように、住民と行政の協働により市街地再開発事業を見直し、事業着手後は非常に短期間で事業を完了できる見込みとなった、全国的にも良いモデルと言える事業です。

## 3) 表彰式およびミニシンポジウムの開催

表彰式は2014年4月5日の関西支部総会に引き続き行われ、表彰状・盾の授与の後、受賞者からのプレゼンテーションと、受賞者代表・まちづくり賞委員をパネラーとしたミニシンポジウムを開催し、会場参加者を含めて意見交換を行いました。

今回の受賞プロジェクトは、大規模駅前再開発プロジェクトから地域密着型のものまで多様でありながら、地域、民間、行政、大学などがそれぞれの役割を果たしながら、お互いに連携した取り組みをうまく進められたことによる成果といえる点で共通していました。

最後に、支部としてのこのような顕彰活動を通じて、関西独自の特色あるまちづくり活動をさらに発掘し、そのような成果をもとにこれからも関西からまちづくりの発信していくことなどを確認してシンポジウムの幕を閉じました。



写真1 受賞者のみなさん



写真2 受賞者による発表



写真3 楯の授与



写真3 ミニシンポジウムの様子



写真4 関西支部長挨拶